

# 1月の予定

9	火	全校朝会 委員会活動 席書会(5、6年)
10	水	あんぜんデー 計測(1、2年) 席書会(3、4年)
11	木	B時程 計測(3、4年)
12	金	校内書き初め展開始(～19日) 計測(5、6年)
13	土	土曜授業公開(書き初め展) 研究授業公開
14	日	
15	月	ジャイアンツアカデミー(4年) クラブ活動
16	火	消防署見学(3年)
17	水	
18	木	カルビー食育授業(5年) 巡回相談
19	金	避難訓練
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	4時間授業 ユニセフ募金開始
25	木	警察署見学(3年)
26	金	避難訓練予備日 ユニセフ募金終了
27	土	
28	日	
29	月	ももにんピック冬持久走開始(～9日)
30	火	4時間授業 新1年生学校説明会
31	水	

## 小中連携教育協議会 保幼小中連携委員会

小学校と中学校の学びの連続性を図ること、学力向上を目指すこと、同じ中学校区の地域に開かれた教育をすること、教職員の連携意識を高めること等をねらいとして小中連携教育協議会が開かれています。5月と12月に行われ、本校から全教員で参加しました。

本校が参加する協議会は、中野中学校区と中野東中学校区に分かれています。中野中学校区では中野中、桃花小、平和の森小、野方保育園、桃二小の教員が集まります。中野東中学校区では、中野東中、塔山小、谷戸小、白桜小、ひがしなかの幼稚園、昭和保育園、桃二小の教員が集まります。

中野中学校区では、児童・生徒の健康や体力向上に向けて、食育の視点で分科会ごとに各校の取り組みを情報交換し、よりよい食生活について検討しました。中野東中学校区では、グローバル人材の育成を目指して、各校での取り組みを共有し、目標や教育活動について精査しました。

このような交流の場を通して、各発達段階をつなげる具体的な取り組みの方針を決め、中学校への円滑な接続を図っていきます。

子どものために 子どもとともに 地域とともに歩む桃園第二小学校



# 桃二

— 学校便り —

<桃二小ホームページ> <http://nk-momo2-e.a.la9.jp/>

<教育目標>

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- 元気な子



～開校102周年～

令和6年1月9日(火)

No.12(1月号)

中野区立桃園第二小学校

校長 山崎 義弘

## 8ページ 新春特大号

- 1、6…校長よりご挨拶
- 2～5…モモニーランド
- 7………タブレットは紙に勝てるのか
- 8………1月の予定、小中連携教育協議会、校内書初め展、生活目標、ももにのUD

## 謹賀新年

校長 山崎義弘

新年 明けまして おめでとうございます。

本年も、「子どものために 子どもとともに」をモットーとして努めてまいります。引き続き、ご支援・ご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

このたび発生した、令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地域の皆様の安全確保、そして一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

## 年末年始のテレビ・新聞・書籍から

年末から年始にかけての、テレビや新聞、書籍から、印象に残ったことについて記させていただきます。

12月中旬にテレビで、「若手も上司も不安!? 働き方・育成の“すれ違い”“解消法”(NHK)を観ました。「どうすれば働き方のギャップを解消できるのか」といった内容で、働き方のギャップというのは次のようなことでした。働き方改革が進む中、若者の離職率が約25%から減っていません。会社を辞める若者の本音を聞くと、「働き方改革が進む職場をゆるい」と感じ、退職を考える人が少なくないのだそうです。一方で、働き方改革が進む中で、「若手が十分に育っていない」と感じる管理職は75%にのぼるとのことです。働き方改革が進み、職場の環境が一変する中、中堅・ベテラン社員の中には育成に悩む人が少なくないとのことでした。(6ページに続きます。)

## 校内書き初め展

国語担当

期間：1月12日(金)～19日(金)

場所：各教室の廊下壁面

平日は、15時45分～18時

13日(土)は、8時45分～18時を鑑賞時間とさせていただきます。

※14日(日)は実施いたしませんのでご注意ください。

受付名簿に名前を書いてお入り下さい。1・2年生は硬筆、3～6年生は毛筆です。全校の子どもたちの作品も併せてご覧ください。



昨年度の席書会・書き初め展

## ◎生活目標「礼儀正しくしよう」

生活指導主任

新年を迎え、たくさんの人と挨拶する機会も多かったと思います。学校でも自分からすすんで挨拶する姿がたくさん見られるようになってきています。挨拶をすることで、スムーズな人間関係を築けます。6年生を手本として、TPOをわきまえ、誰に対しても礼儀正しく接することができるように意識を高めていきます。また、相手にとって優しい言葉遣いをするすることで、いじめを防ぎ、優しい温かな雰囲気の中で安心して過ごしていくことができます。優しい言葉遣いで言葉を伝え合うことを心がけられるようにしていきます。

## ももにのUD

特別支援教育コーディネーター

今回は、きこえとことばの教室について紹介します。きこえとことばの教室は、桃花小学校に設置しており、聞きこえやことばに関する不安や心配のために力を十分に発揮できない子どもに指導を行っています。たとえば、聞き返しが多い、発音がはっきりしないなどの聞きこえにくさ、話し始めや言葉の最初の音を繰り返す(ば、ば、ばくは等)、ひきのばす(ばおーくは 等)、つまって出にくい(…っばくは 等)などの吃音、音が置き換わる(例 さかな→タかな)、音が抜ける(例 ごはん→オアん)、音が歪む(例 シ・チ等の音がこもった感じ)などの、発音に誤りがあるという困りを解消するために指導をしています。普段は在籍している学級で学習し、決められた曜日、時間に通い、学習します。個々の困りに応じて個別指導を中心に、必要に応じてグループ指導も行っています。ご興味のある方は、担任、または特別支援教育コーディネーターまでご連絡ください。

## 再掲 1月、2月の学校公開は、講演会にぜひお越しください。

外部教育力を活用して、教育活動を充実させたいと考えています。今年度は、保護者の皆様と一緒に専門家のお話を聴き、子育てについて考える機会を作りたいと思います。ぜひ、ご予約ください。

## 1月、2月の学校公開では、こんなお話が聴けます！お楽しみに！



令和6年1月13日(土)

教科の授業地区公開講座

2校時 9時35分～10時20分

「なぜ？」を考えることが楽しい子どもを育てる

お話して下さる方 山崎 憲 先生

元小学校校長

元東京都算数教育研究会会長

東京学芸大学、日本女子大学などで講師

現在でも、東村山市算数教室を開催して算数好きの子どもたちを育てていらっしゃいます。

令和3・4年度の本校が取り組んだ子どもたちの学力向上のための授業研究を全面的に支援・指導していただきました。

どちらの日も、1校時、3校時は授業を公開します。2校時は、講演会場に皆さんでお集まりください。

今週末です!



令和6年2月17日(土)

道徳授業地区公開講座

2校時 9時35分～10時20分

子育てと親子関係の心理学

お話して下さる方 小野寺 敦子 先生

目白大学心理学部教授

臨床発達心理士・心理学士

発達心理学、家族心理学、ポジティブ心理学

児童発達支援施設 NPO 法人フレンズスクエア理事長

新宿区特別支援巡回指導チームリーダー

著書 『手にとるように発達心理学がわかる本』  
『パパのための娘のトリセツ』  
『親と子の生涯発達心理学』

## タブレットは紙に勝てるのか ～タブレットと紙の共存へ～

今年度、桃園第二小学校では、中野区で「キュービナ」「ナビマ」が無料で使用できるようになったことから、紙のドリルを全く使用せずにデジタルドリルを使用することで、子どもたちの学力向上と個別最適な学びの実現に向けた方策を検証しました。

### (1) ナビマの選択

令和5年2月にナビマの説明を聞いた段階で、計算の過程をノートのようにタブレットに書くことができることがわかりました。それまでデジタルドリルの最大の問題点であると考えていた「途中の思考が記録できない」ということが解決できるとわかったことから、その段階でナビマを中心に使用することを決めました。令和4年度中に、教員がナビマの活用法について研修し、令和5年度当初から全学級で使用できるよう準備しました。

復習や家庭学習にナビマをフル活用し、紙のドリルを購入しないこととしたことから、全学年において、年間の教材費が2,000～2,500円減となっています。

### (2) デジタルの利点

デジタルドリルは、使用状況がデジタルで記録・蓄積されるため、子どもたちの取組状況・学習状況を把握しやすいです。本校においては、紙のドリルをまったく使用しないため、全学年においてナビマを活発に使用することになりました。その結果、全国においても使用率が高い学校となりました。4～11月の間において、一人当たり約1,300問に取り組んだことがわかっています。1年生の学級で平均1,700問、5年生の学級で平均1,500問に取り組んでいます。デジタルドリルの使用は、低学年、高学年の区別なく行えることがわかります。

### (3) 総務省「情報信託機能を活用した教育分野におけるデータ利活用に係る調査」への協力

TOPPANホールディングスより、総務省令和5年度事業「情報信託機能を活用した教育分野におけるデータ利活用に係る調査」に協力依頼を受けました。本事業において、保護者から同意を得た本校5年生について、次の情報をデータとして収集して関連性を調べることとなりました。

#### ①ナビマの使用状況 ②デジタル教科書の使用状況 ③単元テストの結果 ④出欠状況

これらの情報を集約した上で、個人カルテを発行して子どもたちや保護者の皆様に伝えながら、子どもたちの学習状況を把握し指導に生かしました。各種データを利活用することにより、単元の学習において子どもたちが取り組んだドリル学習と評価問題の結果を比較することができました。また、学習時間の記録により、個々の子どもの学習状況を把握することもできました。

### (4) 子どもたちと保護者の皆様の評価

令和5年12月に、子どもたちと保護者の皆様に学校生活・学校教育に関するアンケートを行った際、デジタルドリルについての評価を尋ねました。その結果は、次の通りです。

<子どもたち>

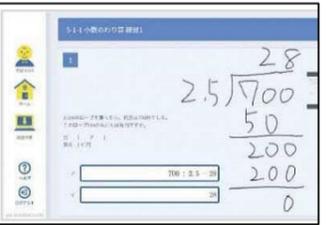
	とてもなっている	少なっている	あまりなっていない	なっていない
アイパッドのドリルで学習することは自分のためになっていますか。	62.8%	24.2%	7.8%	5.2%
	87.0%		13.0%	

<保護者>

	全学年、家庭学習はデジタルドリルのみで十分である。	学年によって紙ドリルとデジタルドリルを併用したほうがよい。	全学年、紙のドリルとデジタルドリルを併用したほうがよい。	全学年、紙のドリルのみの方がよい。	無回答
子どもたちの基礎的・基本的な学力の定着のため、紙のドリルを一括購入せず、区から提供されたタブレットのドリルを活用しました。これについてお考えをお聞かせください。	13.3%	28.3%	42.8%	8.9%	6.7

### (5) まとめ

低学年における書字の学習では紙を活用したほうがよいという意見が多くありました。一方で、高学年では、特に計算のドリルはデジタルでよいという意見もいただきました。これからの時代を生きる子どもたちにとって、デジタル機器を使って考える、書く、表現するといったデジタル機器の活用能力は必要です。デジタル機器を利用することで学習に向かう意欲が高まるという点もあります。次年度に向け、子どもたちの学習環境について総合的に検討してまいります。



園長による開園宣言

6年生の進行で開園式

4年生がアートガイドをお知らせ

2年生が劇で



12月8・9・10日にモモニ

## Momoney 日頃の活動

学校や学級でより楽しく過ごせ  
学級活動、クラブ活動、委員  
全校の子どもたち、保護者・地域



ジャンボリミッキーを全校で踊ります

6年生のお化け屋敷は混乱を防ぐため6年生が事前

## 若手を育てる

教員の成り手が少なくなっているという昨今の状況の中、これまで以上に人材育成は重要になっています。そんな中、本校の教員から紹介され本『先生、どうか皆の前でほめないで下さい』（金間大介 東洋経済新報社）や『Z世代・さとり世代の上司になったら読む本』（竹内義晴 翔永社）等を読みました。それらの書籍によれば、「デジタルコミュニケーションの急速な変化」「少子化による人口ピラミッドの変化」「定年まで一つの会社というロールモデルの喪失」「『多様性』が時代のキーワードに」という社会環境の変化により、若者の考え方・生き方が変化し、若者自身さえ無意識に「よい子症候群」として行動する、例えば、意欲は見せるが必要以上のことはしない、困ったときは固まることで誰かに助けをもらう、というようになってきているとのこと。そんなことないとお叱りを受けそうですが、書籍の内容なのでご容赦ください。上述の「働き方改革が進む職場をゆるいと感じ」る若者が「よい子症候群」に当てはまるのかどうかはわかりませんが、新しい時代に生きる若者を育てる側も柔軟に変化することが必要になるということでしょう。

## 現役世代が1,200万人マイナス

元日の新聞の一面に次のような記事がありました。「現役世代が今の8割に減る2040年。これまでの当たり前は通用しなくなる。私たちはどう生きていくべきか」「日本の高齢化率が35%に迫る2040年。働き手の中心となる15歳から64歳は今の2割近くの1,200万人も減る。」「突き付けられているのは、制度や予算があっても働き手がいなければ機能しないという『新しい現実』」「過去を前提にする限り、社会のきしみがやむことはない。」（『その未来は幸せか 希望は言葉の中に』朝日新聞 1/1 朝刊）

## 若者を支える

以前から私は次のような不安を抱いていました。若い方々の多くが、株や投資といったことで生計を立てるようになったら、日本の労働力というのは一体どうなってしまうのだろうか。この記事の中で、元気な高齢者がひ弱な若者を介抱する、という高齢化社会の行き着く先を暗示するような小説『献灯使』（多和田葉子 講談社文庫）が紹介されています。健康で元気なシニアが増える（私も元気元気でいきたいです！）喜ばしい状況の中で、若者の数が減り、心を病んでしまう若者が目につくということは、日常の中で感じられることです。働き手が不足しているというニュースは教育の世界だけではなく、将来の働き手不足というのは、切実な問題であり、そのことはすでに予見できます。労働力とはいわないまでも、元気なシニアが若者を支えるということは、これからの時代に大切なことなのだろうと思っています。

## 新時代の学びに向けて、から、新時代を生きる子どもたちの学びに向けて

昨年の学校便り1月号で、私は、次のように書きました。

元日のいくつかの新聞の中で「リスキリング」（学び直し）という言葉が目にとまりました。...私が、大学生だった30数年前には、「リカレント教育」という言葉が聞かれるようになっていました。...「リスキリング」にも「リカレント教育」にも、共通しているのは、個人の学びに向かう力だと考えます。

「学びに向かう力」とは、生きる力の根幹だと考えます。子どもたちは、これからの人生の中で、多くの困難に出会い、多くの失敗を経験することでしょう。しかし、それは誰にでも、いつでも起こること、として受け入れ、問題解決し、再発防止のための新しい策を講じられる人へと成長してほしいと思っています。「たった1打席、1球でホームランを打つのは難しい。将棋のように駒を取らせながら、勝利を目指して攻めていく。大事なことは失敗しないことではなく、失敗の総量を管理しながらイノベーション（変革）の方向に進んでいくことだ。」（いづばまさゆき 日本経済新聞1/1朝刊）という記事を読みました。私も、まさにその通りだと思いました。

## モモニーランドをつくった子どもたちの学びに向かう力・生きる力

12月に、「学校をモモニーランドにしよう」「モモニーランドをつくろう」と、展覧会、特別活動の発表会を行いました。この日桃園第二小学校は、子どもたちの創意・工夫、思考力・判断力・表現力にあふれた夢の国になりました。子どもたちの学びに向かう力、生きる力が結集したと思いました。

学校は、子どもたちが未来を幸せに生きるための力を育む場所。学校は、子どもたちが将来を幸せに生きるための人格形成の場所。モモニーランドを成功させて満面の笑みを浮かべる子どもたちを見て、子どもたち、未来の若者たちの幸せを願い、子どもたちとともに笑い、汗をかき、子どもたちのために努めたいという思いを強くしました。本年も、教職員一同、子どもたちのために頑張ります。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。





近隣の園・学校からも出展をいただきました。



会場で、4年生がアートガイドとして、作品の解説を行いました。4年生は、全学年の作品について調べ、説明の練習を重ねて準備しました。お客様からは大好評でした。

探究学習の超優秀作品も展示しました。



展覧会場をランウェイにして、2年生が作品を身にまといファッションショーを行いました。少し照れながらもポーズを決めて、たくさんの拍手をいただきました。

